



柏崎市地域おこし協力隊 石黒地区担当

**加藤 夕恵**

KATO YUME

1984年 千葉県出身

2023年 9月 柏崎市地域おこし協力隊  
高柳町石黒地区担当として赴任

今年9月、高柳町石黒地区で初めての地域おこし協力隊として赴任した加藤夕恵さん。古民家を活用した農家民宿「田中」に隣接する、上石黒集落センター内「さわらび工房」で、新たな特産品を開発することがミッション。さまざまな地域の課題にも取り組んでいる。

加藤さんは千葉県出身、これまでは市川市で銀行の相続事務などの仕事に携わっていた。祖父母が花農家だったこともあり植物が大好き。子どもの頃から物作りが好きで料理も得意。毎年夏休みには妹、弟と共に福島で桃農家を営む母方の祖父母の家に長期間滞在して農家の仕事を手伝い、大量に採れる野菜で工夫しながら料理を作っていたと振り返る。

地方への移住を視野に入れ、本格的に動き始めたのは1年前。これまで山口県や岡山県、群馬県、三宅島など、さまざまな体験イベントに参加した。3月末に締切り間際だった石黒への体験イベントに参加。自然豊かで古民家が多く残る高柳地域には、からむし(青芋)の織り、つる籠編などの手仕事、和紙工房もあり、物作りの印象が強く残った。農家民宿「田中」を運営するNPO法人石黒邑代表の

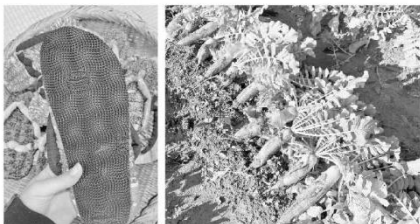
田辺さんご夫妻の奮闘ぶりに心を打たれ、自分にも何かできることがあるのではないかと協力隊になることを決めた。

石黒で活動を始めて4カ月、イベントの参加は4回を数える。「狐の夜祭り」には、加藤さんの発案で小豆やおからで作った味噌を使い石黒邑のスタッフと一緒に味噌おにぎりと豚汁を作った。「からむし街道」では地域のお母さんたちと一緒に、地元野菜やおにぎり、きのこ汁を提供する作業を行った。11月には地域の人たちから協力してもらい、初めて「着物イベント」を開催。協力隊の存在をアピールすることができた。

石黒地区は現在7集落で住民は53人。少しずつ地域をまわり、一緒にお茶を飲んだりしながら石黒のことを学んでいるという。

今、加藤さんが住まいとして借りているのは古民家。炭を起こし、生まれて初めて火鉢で暖を取る生活を経験している。家の前の畑には、地域の人に教わりながら育てた大根や白菜が立派に実っている。畑で育てたさまざまな野菜や果物、山菜等も利用しながら加工品のアイディアを練る。秋に採れたかぼちゃの加工品など、既に試作を始めているものもあり、冬の間には麴作りを始めて、通年で利用できるように試してみたいと意気込んでいる。

雪深い石黒で初めての冬を迎える加藤さん、布草履作りなどの手仕事もしながら石黒の良さや新しい発見を常にSNSなどで話題提供していきたいと前を向いた。



お問い合わせ

農家民宿「田中」内

柏崎市高柳町石黒1434

☎090-4628-3672 (加藤)

Instagram



Instagram



Facebook

